

食育推進基本計画策定委員から出された意見のまとめ

次期計画の方向性

- 方向性 1 生涯を通じた心身の健康を実現する食育の推進
 方向性 2 食卓と生産現場をつなぎ、食文化を次世代に伝える食育の推進
 方向性 3 持続可能な食を支える食育の推進

No.	委員からの主な意見（趣旨）		考えられる取組（例）
方向性 1	朝食欠食と生活リズム	朝食欠食は、子どもから若い世代まで全国的な課題である。学校・園では、朝食を食べていない子や、パン・ヨーグルトだけなど1品のみの子が一定数みられる。就寝時間の遅れやSNS・ゲーム等による生活リズムの乱れも背景にある。	家庭だけに任せず、園・学校、地域等と連携し、「早寝早起き朝ごはん」を継続して伝える。
方向性 1	高校卒業後・若者へのアプローチ	高校卒業以降、生活リズムや優先順位が変化し、朝食を食べない人が急増する。時間がない、経済的な負担、調理技術の不足など、背景は多様である。	若者の生活実態に即し、SNS等のデジタル媒体や、簡便で実践しやすい食事の提案を含めた周知啓発。
方向性 1	地域での食の担い手	ヘルスマイトの養成講座は参加者確保が課題である。	ヘルスマイト等の地域の担い手を増やすための周知・声かけ。
方向性 2	生産者・消費者の距離を縮める取組	JA による農業体験や地元農産物の料理教室、漁業関係者による体験漁業・海苔焼き体験等が実施されている。学校給食等を通じた佐賀海苔や地場産物の啓発も重要である。	農業・漁業体験、料理教室、学校給食等を、保護者や地域も巻き込んだ継続的な地産地消・食文化の継承を行う。
方向性 3	持続可能な食のあり方	食品ロス削減の現場では、企業・行政からの食品を支援世帯へつなぐ取組が行われている。	食品ロス削減と食支援をつなぐ取組の周知啓発。
方向性 3	時代に合った食育・共食	単身世帯の増加や女性の社会進出など、家族の食事時間や「共食」に対する考え方が変化している。調理をしないことを一概に否定せず、簡便に食べる価値観も踏まえる必要がある。	第3次計画の理念をそのまま引き継ぐのではなく、現在の社会状況に合う目標・表現・施策の検討。
方向性 3	食を取り巻く環境と支援	経済的困窮、ダブルワーク、心身の不調等により、栄養バランスや野菜摂取を完璧に実践することが難しい家庭がある。まずは「朝に何かを食べる」など、取組のハードルを下げる視点が必要である。	個人の意識だけが問題ではなく、食品支援、子ども食堂、地域食堂等とも連携し、実行可能な支援を行う。